

2021年3月29日

## 第8回エクセレントNPO大賞 総評

### 1. 開催について

第8回エクセレントNPO大賞はコロナ禍の中での開催となりました。例年のように7月1日に募集を開始すべく準備していましたが、しかしながら、緊急事態宣言が出され、民間非営利活動を取り巻く環境も大きく変化しました。対面サービスを主たる活動とする団体が多い中で、活動が著しく制限されました。こうした中で、一体、応募してくださる団体があるのだろうか、この時期に大賞を開催することが的外れな行為にならないだろうかと、案じました。そこで、審査委員、運営委員で議論を重ねましたが、誰一人、中止を推す者はいませんでした。むしろ、こうした時期だからこそ、頑張っている民間非営利組織を応援するべきであると一致したのです。

そこで、エクセレントNPO大賞の全工程を3カ月遅らせました。また、コロナ対応チャレンジ賞を特別に設けました。

### 2. 応募の状況

今年の応募総数は91件でした。例年100件程度のご応募を頂いていますので若干少ないのですが、このような困難な時期にあって、予想を上回るものでした。

応募者は、リピーターが4割、新規が6割で、この数年来と真逆の結果となりました。こうした背景には、コロナ対応チャレンジ賞の影響があります。コロナ対応チャレンジ賞では、新規応募者が8割を占めたことから、新規応募者にとって、挑戦しやすい部門であったことが窺われます。他方、リピーターが例年よりも少なかったのですが、コロナ禍の影響で前年に比べ活動が縮小したため、自己評価書（応募用紙）を書きにくいと感じられたのかもしれませんが。

活動分野は多様で、子ども、教育、医療、まちづくり、環境、災害復興支援、芸術や芸能などの分野からご応募がありました。また、外国人労働者や多文化共生分野の団体からの応募が増加しています。

### 3. 審査方法 ～審査ボランティアの活躍～

審査の方法については既にご説明しておりますので、特に、印象的だった点について触れておきたいと思います。エクセレントNPO大賞の審査は、審査委員だけでなく、審査ボランティアの方々にも重要な役割を担っていただいています。今年は、公務員、企業人など20の方々にご参加いただき、一次書面審査とフィードバックコメントを担

当して頂きました。中には、応募者の記述よりも長いコメントをお送りすることもあります。そのためでしょうか、フィードバックコメントを理由にご応募くださる団体も少なくありません。

今年は、在日外国人による応募がありました。母国語でない日本語による記述には意味が通じにくいところもありました。それを見た審査ボランティアが「外国人のための日本語ガイド」を参照しながら、自己評価書の日本語を修正しました。

また、応募団体の HP から財務諸表をダウンロードした上で、自己評価書とつきあわせながら分析を行い、別途、会計処理上の改善点を指摘したボランティアもいました。年々、ボランティアの方々のスキルが向上しているようにみえますが、その真摯な仕事に改めて感謝申し上げます。

#### 4. 審査結果

##### (1) 議論の論点、視点

審査の観点として重視されたのは「市民力」でした。エクセレント NPO 基準には「市民性」にかかる基準が設けられています。これは、広く人々に参加の機会が拓かれ、参加者の成長の機会を提供できているのかを問うものです。しかし、本審査においては、さらに一步進めて、参加した人々の力を課題解決に活かすことができているかという点が論点になりました。

第 8 回エクセレント NPO 大賞を受賞された POSSE は、広くボランティアを募り、労働法などの研修を行っています。そのボランティアは、外国人向けの生活や就労相談を担い団体の戦力として活躍しています。団体が取り組む課題解決に市民の力を効果的に活かす好事例と言えるでしょう。

##### (2) 大きな議論になった「課題解決とは何か」

また、課題解決を議論する上で、何をもちって生産的であるのかという点も議論になりました。例えば、亡くなってゆく子どものサポートも大事だが、長期療養を経て学校生活に戻る子どものサポートも大事ではないかというものです。確かに、亡くなってゆく方よりも、生きてゆく方のサポートの方が生産的という見方もあるのかもしれません。しかし、功利主義的な発想だけが、エクセレント NPO の課題解決の視点ではなく、このような分野にも民間非営利活動の大事な役割があるのではないかということで意見が一致しました。

##### (3) 受賞団体が示した大事なメッセージ

前述の通り、今年はコロナ対応チャレンジ賞を特設しました。予想以上に多様な団体からご応募いただきましたが、国際協力に従事する PLAS が受賞しました。

コロナ禍の下、自らを守ることで精一杯で他国に目を向けることが難しくなっていま

す。また、国際社会の分断化にさらに拍車がかかった感があります。こうした中であって、遠くアフリカで、コロナ禍で食糧難に苦しむ人々の為に活動する団体が受賞されたことは、社会に大事なメッセージを提示していると思います。

## 5. 今後の課題

NPO 法施行から 20 年以上が経ち、新旧様々な団体が存在しています。若い団体は活動を軌道に乗せるために、日々、試行錯誤を重ねていると思います。歴史ある団体の中には、組織的に安定していても、職員や会員の高齢化、世代交代の問題に直面しているところもあります。その意味で、組織の年齢に関係なく、どのような団体も活動環境や変化に応じて、自らを刷新させてゆく必要があると思います。

エクセレント NPO も、その定義において「刷新性」を尊重していますが、現行の 15 基準の中にはこの視点が明示的に含まれていません。刷新性の視点をどのように組み入れてゆくかという点は今後の課題です。

最後に、民間非営利組織の皆様申し上げます。コロナ禍で、活動を自粛するなど、予定を変更せざるをえなかった団体は少なくないと思います。そうした困難の中にあっても、工夫を凝らしながら活動を続けていることに心から敬意を表します。

今、コロナ禍によって、社会は優しさを失い、萎縮しがちです。だからこそ、民間非営利組織には、その活動を通して、他者や他国を思いやり、助け合うことの大事さをこの社会に伝えていただきたいと思います。そして、来年、その様子を自己評価書にしたためて、エクセレント NPO 大賞にご応募いただければ幸いです。